

# 目的論的機能主義に基づく志向性の自然化——ドレッスキ表象論

勝亦 佑磨 (Yuma Katsumata)

東京大学

本発表の目的は、心の哲学における目的論的機能主義の立場から、「心的内容の不確定性の問題」を考察することである。目的論的機能主義とは、心的状態を、生物の心臓や肺のように「生存に有益な」機能を持つ生物学的状態として捉える立場である。目的論的機能主義の主流な見解は、ミリカンによる生物の進化に基づく表象論（例えば Millikan, 1989）であり、それによれば、心的状態を生み出す形成機構（生産者）とその心的状態に基づいて行動を引き起こす利用機構（消費者）は、それぞれの機能を持つために祖先の生存に役立ち、それゆえに進化の過程で選択され、現在においても存続している。このようにして選択されてきた生物の器官や特性の持つ機能は目的論的機能と呼ばれ、目的論的機能主義の論者はこうした目的論的機能によって心的状態の持つ内容を確定するのである。ところが、こうした目的論的機能主義による説明では、心的内容が一義的に確定しないという点で、不確定性の問題が生じる。

目的論的機能主義の主流な立場は、上記のようなミリカンによる進化に基づく表象論であるが、本発表であえて焦点を当てるのはドレッスキによる学習に基づく表象論（Dretske, 1988）である。その理由は、次の点である。心的内容は、進化による種レベルの説明が可能な場合と、学習による個体レベルの説明が可能な場合があるが、後者は前者よりも肌理の細かい心的内容を心的状態に帰属できる可能性があり、その意味で心的内容の不確定性の問題を解決に導く可能性があると考えられるからである。

ドレッスキの表象論は次のようなものである。ドレッスキによれば、「C が F を表象する」とは「C が F を表示する（C が F についての情報を運ぶ）機能を持つ」ことにほかならない。行動における学習を通じて、動物の内部には、外側が F の状態であるときに内的状態 C が生じ、C によって身体運動 M が引き起こされるといったメカニズムが形成される。こうした学習を通して、生物の内的状態 C は、F を表示する機能を獲得する、すなわち表象するようになるのである。例えばハトは学習を通して、装置の信号が赤である（F）ときにある脳状態（C）が生じ、それによってレバーをつつく（M）というメカニズムを獲得する。このようにしてハトのある脳状態は、「信号が赤であること」を表示する機能を獲得する、すなわち表象するようになるのである。ここで、心的内容（表象内容）を確定するにあたって、この C の内容とは何であるかを確定することが問題となるが、ドレッスキに従えば、C の内容は生物の行動を成功に導くような外部の状態（先の例では、信号が赤であること）であるとして、確定されることになる。

だが、こうした学習に基づくドレッスキ表象論には次のような点に関して検討の余地がある。第一に、学習による理論が、心的内容を確定させるのに十分な役割を果たしているかどうかという点が挙げられる。というのも、学習に訴えたからといって生物の内的状態が表象している内容が一義的には確定せず、進化に基づく表象論に生じる

のと同じように不確定性の問題が生じる可能性があるからである。第二に、心的内容を確定するにあたって、進化に基づく表象論ではなく学習に基づく表象論をあえて支持する意義はどこにあるのかという点である。ドレッキによれば、生得的な表象が進化に基づく表象論によって説明される一方で、人間の意図的な行動に因果的に関与するような心的状態（例えば信念など）は、学習に基づく表象論によって説明されるとして、自身の表象論の必要性を訴える。しかしながら、こうした進化による理論と学習による理論の、ドレッキによる区別の仕方が妥当なものであるかどうかという点には検討の余地がある。第三に、そもそもドレッキの表象の定義が妥当なものであるかどうかという点である。先にも述べたようにドレッキは、「CがFを表象する」とは「CがFを表示する機能を持つ」ことであると定義する。しかし、ここでいう「表示」及び「機能」の概念が明確でないとしてドレッキを批判する論者いる。「CがFを表象する」を「CがFを表示する機能を持つ」と言い換えたところで、「表示する」あるいは「機能を持つ」とはどのようなことなのかがきちんと説明されない限り、「表象する」とはどのようなことなのかが定義されたことにはならない。そして重要なのは、「CがFを表象する」というときにCの持つ内容が何であるのかが一義的に確定されないという問題が生じるのと同様に、「CがFを表示する機能を持つ」というときに、Cはいったい「何を」表示する機能を持つのかという問題が生じる。こうした問題に答えるためにも、表示及び機能の概念を明確化し、ドレッキの表象の定義の妥当性を検討する必要があるだろう。

本発表ではドレッキ表象論に関する心的内容の不確定性の問題に関して、以上のような点を検討したい。